

大きな夢の実現に、
 勇気とオリジナリティで挑む。
 それがTDKのモノづくりです。



私たちTDKの歴史は、世界初の磁性材料である「フェライト」の工業化とともに始まりました。他人の真似をするのではなく、世の中にまだ存在しない何かを、しかも原材料の段階から創り出す。そして、それをどう社会の中で活かしていくのかという市場までを、独創性を持って自分たちで開拓していく。そうした、徹底してオリジナリティを追求する創業以来の精神は、今もTDKにしっかりと根付いていると考えています。

特に、一貫してこだわり続けてきたのがフェライトに始まる「磁気」関連の分野です。カセットテープやビデオテープ、HDDなどの記録媒体ヘッド、そして低消費電力や高速動作などの特長を持ち、次世代メモリとして期待の高まるMRAM（磁気ランダムアクセスメモリ）など、「磁気といえばTDK」と言っていただけの実績を重ねてきたと自負していますし、今後もそうあり続けたいというのが私の強いポリシーです。

また、私たちが培ってきたこうした技術力は、社会が直面する課題にさまざまな形で貢献できると考えています。たとえば、送電の際の電源変換ロスを削減する技術の創出や、高性能を維持しながら電子部品の小型・軽量化をすすめることは、ひいては社会全体の環境負荷低減につながります。独自の技術を活かし、私たちのお客様のその先に広がる社会のニーズに自由な発想と創造力とを持って挑んでいけば、そこから数多くの可能性が広がっていくはずで

約6万人の従業員にも、そうした視点に立っ

て、失敗を恐れず、勇気を持ってモノづくりに挑む「チャレンジ」の姿勢を求めたいと考えています。そのためにはまず、常に「なぜそうなるのか、これはどうしてなのか」を考え、物事の本質を見極めること。自分の殻に閉じこもらず、さまざまな人と交流すること。立ち止まらずにまず行動して、数多くの経験を積むこと。そして何よりも、大きな夢を持つこと。そうした姿勢の大切さを折に触れて従業員に伝えていくことも、トップとしての私の重要な役割だと思っています。

近年、技術開発の世界においては、エレクトロニクスと磁気工学を組み合わせた先端技術分野「スピントロニクス」が高い注目を集めています。TDKは、これまでの磁気分野での実績を活かし、「エレクトロニクスからスピントロニクスへ」という、新しい世界への橋渡しができる存在でありたい。私たちの前には、そんな大きな夢も広がっています。

たくさんの夢の実現に向けて、今後もTDKは歩み続けます。本レポートに記したその歩みの一端をぜひご覧いただき、忌憚ないご意見をお寄せいただければ幸いです。

TDK株式会社
 代表取締役社長

上 釜 健 夫